

令和6年度 長崎県立宇久高等学校 学校関係者評価報告

1 評価の実施期日・場所

令和7年2月14日（金） 本校 校長室

2 学校関係者評価委員 3名

3 学校評価の内容

- (1) 学校評価の結果について
- (2) 学校評価を踏まえた今後の改善策について
- (3) 今後の重点目標等について

全員から「適切である」という評価をいただいた。

4 関係者からの意見

- 学校開放週間時の他校との交流（英語）の成果について、発表の場を増やしたり、島外の広い世界を見せたりすることは必要性があると思う。続けてほしい。
- 学校評価項目の「授業は工夫されていてわかりやすい」の評価が高い。生徒から高校の授業が面白いという声を聞いた。中学3年生対象の体験授業後の中学生たちの反応も、授業が面白かったと好印象だった。島外受験を考える生徒もいた。
- 小中高合同歓迎遠足の形式を、歓迎交流会に変えることに不安があったが、小学生に対して高校生が丁寧に接してくれていた。
- 中高合同体育大会の時期を変更したのは良かったと思う。熱中症対策にもなった。また、前年度を踏襲するのではなく、現状に応じて変更を加えながら行事を行う姿勢が評価できる。
- 小中高一貫教育は調整が難しく、マイナスの意見もあるかと思うが、本校の場合はどうか。
- 離島留学制度の準備で、学校側の負担は大変だと思うが、島内の生徒の刺激にもなると思うので頑張ってもらいたい。また、離島留学生は何かしらの問題・課題を抱えていると思うので、そのケアを十分に行うべき。ただし、教員の負担増が大変心配されるので、島民全体でこの制度に取り組まなければならない。

5 学校側の対応等

- 他校との英語を通じた交流については、今年度3回実施。レベルの違いはあったが、懸命に話そうとする姿勢がみられ、実施して良かった。来年度も継続していきたい。
- 小中高それぞれの行事や都合を調整するのは、大変苦勞するところだが、異校種の授業を見る機会に恵まれ、教員としては勉強になることが多い。また、生徒の視点では、小中学生と協力して行事に取り組むので、精神的な成長も得られ、様々な効果があると思う。